

平成26年度 全国学力・学習状況調査結果を受けて

帯広市立西小学校長 嘉 藤 篤

1. 実施日 平成26年4月22日
2. 児童の実態 (平成26年度全国学力・学習状況調査結果より) 実施対象 6学年

国語A：主として知識

- ～「話すこと・聞くこと」の領域以外、全国平均を下回っている～
- 国語の言語活動の中では、話し合いのルールや、話し方についての学習を深めたので、話し合いについての問題の正答率が高い。
 - 「学習の約束」を学級掲示し、授業中に話を聞く姿勢などの徹底を図り、話を聞く姿勢ができています。
 - 文章を読解したり、条件に応じて「書く」力が劣っている児童が全道平均より多い。
 - 漢字や語彙の意味を理解して書くことが出来る児童の割合が低い

算数A：主として知識

- ～ 全部の領域で、全国平均を下回っている。～
- 基本的な四則計算はほとんどの子ができている。
 - 全道平均との差は2ポイントほどで、ほぼ全道並みには力がついている。
 - 二つの数量に関して、単位量当たりの大きさを比べることができる。
 - 計算のきまりを理解して、四則が混合している問題を解ける子が7割しかない。
 - 基本的な図形に関する知識に関する正答率が低い。

国語B：主として活用

- ～ほとんど全部の領域で全国平均を下回っている～
- 全体的には無回答率が少なく、記号で選ぶ、まとめて書くことなど、正答率は低いものの、解答を導きだそうとする真面目な姿勢がある。
 - 発表の時にうまく伝わるように工夫するなどの努力をする児童が多い。
 - 長文を読み、内容を理解し、設問への回答を「書く」ことが、全道平均を下回っている。
 - 詩などを読み比べ、自分の考えをきちんと書けた児童は全体の2割程度であった。

算数B：主として活用

- ～ 全ての領域で、全国平均を下回っている。～
- 数量や図形についての技能を問う問題では、指定された条件の中で答えを導き出すことが出来る。
 - 難しい活用問題でも、一生懸命解こうと努力する児童が8割以上である。
 - 示された情報をもとに、数量関係を判断したり、その理由を書くことができる児童が3割程度。
 - これまで学んだことを活かして、日常生活の様々な場面に活用して問題を解くことが出来ない。

児童質問紙より

- 朝、起きる時間や寝る時間が決まっています、睡眠不足の子は、ほとんどいない。
- 自分に対して自信が無い児童が40%ほどいる。
- 半分以上の子が、家庭でインターネットをしたりゲームで遊んだりしていない。
- 休みの日に、1時間以上学習する児童は全体の40%である。
- 将来、人の役に立つ人間になりたいと考えている児童が多い。
- 8割の児童は、家で学校での出来事を話している。
- 学校の授業では、ノートに書くことをがんばっている児童の割合が高い。
- 学校に行くのが楽しくないと思っている児童が、2割ほどいる。
- 「学校のきまりを守る」「友だちとの約束を守る」項目が全国より高い。

☆ この結果を受けて ☆

- ・ 算数の時間に、TTの先生が、わからない児童へ直接指導するようにしています。
- ・ 国語の時間には、読書の奨励をし、ノート指導を通して「書く」活動を増やしていきます。家庭学習や宿題等にも「書く」活動を取り入れていきます。
- ・ 学校だよりや様々なおたよりで、生活のリズムを作ったり、チェックする場面を設けていきます。
- ・ 家庭での学習の仕方について、アドバイスをしていきます。



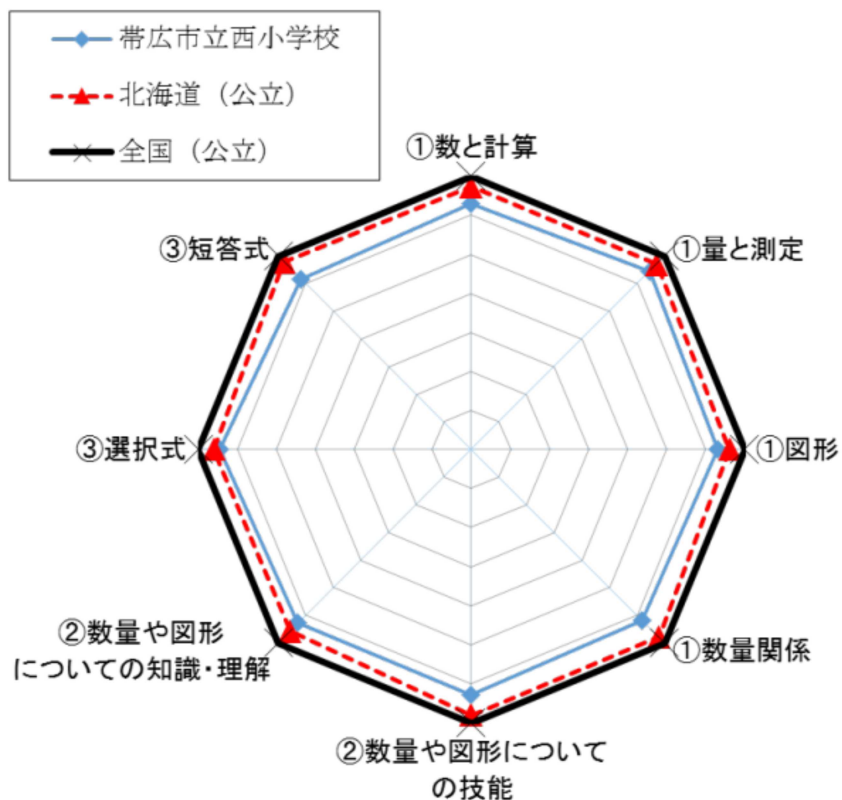
【国語A】



【国語B】



【算数A】



【算数B】

